

# パオちゃん's EYE

2017年12月1日 発行 No. 9

## 三葉虫(さんようちゅう)

三葉虫はアンモナイトとともによく知られている化石です。今月はこの三葉虫についてご紹介します。

三葉虫は古生代のカンブリア紀～ペルム紀（5億7000万年前～2億4500万年前）の3億年以上にわたる長い間、世界の広い海域に生息していた節足動物で、化石の研究によって約1万種の種類が知られています。

三葉虫の体は背側がよろいのような多くの節からなる殻でおおわれ、化石として残っているのは殻だけの場合がほとんどです。殻は頭部、胸部、尾部に分かれ、成長とともに脱皮をくりかえしていたようです。また腹側からは多数のあしが出ていたようですが、化石としてはほとんど残っていません。なお、化石として発見されるのは脱皮した後の殻もかなり多いです。大きさは頭部の先端から尾部の先端まで1cmに満たない小さなものから、70cmに達する大きなものまで様々ですが、一般的には2～7cm程度のもので多いのです。

三葉虫が海底を歩いた跡が化石として見ついていることから、三葉虫は海底で生息していたようですが、浅い海に生息するものや深い海に生息するものなどさまざまで、海底の泥の中の微生物を食べていたと考えられています。また、魚などの外敵に襲われると体を丸めて防御の姿勢をとったようです。

岡山県内からは井原市芳井町日南の3億年前の石灰岩などの中からわずかながら1～2cm程度のものが見ついています。



三葉虫の化石



体を丸めたまま化石になった三葉虫



頭部の一部

尾部

岡山県産の三葉虫の化石

武智泰史(地学担当)

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには  
いろんな情報がいっぱい♪  
「倉敷市立自然史博物館」で  
検索してみよう! パオより

